

## 2022年12月ハイパー研カレンダーレポート

11月からのサッカーワールドカップ（W杯）カタール大会で、日本はドイツに続きスペインにも逆転勝利という快挙を成し遂げ、グループ1位で決勝トーナメントへ進んだ。しかしクロアチアにPK負け、目指していたベスト8の壁は高かった。優勝したのはアルゼンチン、36年ぶり3度目、あのマラドーナ以来、W杯4度目の正直であるメッシの悲願が叶った大会となった。それにしても、延長戦でも勝敗がつかないPK戦が多く、決勝でもフランスとの一進一退の戦いはPK戦へとつれ込んだ。

さて今年も年の瀬がやってきた。世相を漢字一字で表す今年の漢字には、「戦」が選ばれた。ウクライナでの「戦い」だけではなく、スポーツという形ではあるが、国家を背負い争うW杯の熾烈な「戦い」もあったのだろう。同じ戦いでも世界の人々に与える影響は雲泥の差であり、前大会ロシア大会をホストしたプーチンは、その感動やいろんな国々の希望や夢をどのように見ていたのだろうか。人類の未来を想像するSF作品は多いので、国家化から宇宙化へという軌道を皆なで考えていきたいものだ。

大分空港が宇宙港になったことから、注目度が高い宇宙話題、民間として日本初の月着陸を目指す宇宙ベンチャーのアイスペース社が、独自に開発した月着陸船を米フロリダ州の宇宙基地から打ち上げた。月に到着するのは、2023年4月頃を予定している。来年の楽しみがまた一つ増えた。会社はこれまでもいろんな試行錯誤の末、自らで開発するという道をとったわけだが、成功することで日本の技術力を宇宙で示して欲しい。またそれが次のベンチャー企業に繋がっていくことに期待したい。

このハイパー研カレンダーレポート、今年の1月から始めて12月でちょうど1年を迎える。大きなトラブルもなく、いくつかの課題プロジェクトを進めることが出来たのは、スタッフの日々の努力とステークホルダーの皆様の協力のおかげである。今年最後のレポートとして御礼を述べたい。2月からの「大分県ICT教育サポーター育成プラットフォーム事業」では、新たに30名を超えるスタッフを雇用、県立高校58校でGIGAスクール構想のために活躍してもらっている。2003年度からの「情報モラル啓発事業」は、2021年度1年間だけ空白があったものの、今年度も全国10会場でセミナーを開催している。このコロナ事情からすべての会場でハイブリッド対応である。大分市の「市民向け情報教育運営業務」、市民のためのICT学習を目的として、高齢者のためのスマートフォン講座や親子プログラミング体験講座を開催している。いずれも参加者の人気や満足度が高く、評判も良い。

3年目となる「おおいたAIテクノロジーセンター」の活動も目が離せない。ビジネスコンテントでは、県内企業が素晴らしい製品やサービスを応募してきた。製造業やサービス業等、いろんな分野で着々とGPUの実装が進んで来ている。まさにAIの基本テクノロジーの社会実装である。また一般向けにも大分駅前広場で「AIフェスタ」を開催、AIレーシングカーを使って広くアピールした。教育現場でもエッジコンピューティングに触れたり、農業AIを授業に活用したり、トライアルは続く。さらに、思考訓練としてのアイデアソンをデザインシンキングとして、多くの学校で授業実践している。もう一步進めて、APU留学生とのコラボでインバウンド観光施策を立案、ツアーコースを開発するといった体験型のワークショップにも挑戦してみた。そんなこんなで来年も大分の高校生の未来は明るいと感じている。

（文責：青木栄二）